

H27 年度前期輪講

高齢者の社会参加を促進するには？

～質的な社会調査の方法を一緒に学ぼう～

この輪講では、質的調査の方法として看護学分野などで用いられるグラウンデッド・セオリー・アプローチ（Grounded Theory Approach: GTA）を学び、まちづくり分野への適用可能性を検討します。

まちづくり分野でも、インタビュー調査や観察調査から理論を構築しようとする研究は多いですが、方法は分析者によって異なり、その主観が十分に排除されていないものも見られます。GTAにはそうした課題を克服できる可能性があります。

この輪講で扱うデータは、定年退職後に地域デビューし、防犯パトロールや公園の美化活動を熱心に行う高齢者約50名のインタビューを書き起こしたものです。高齢者の社会参加は、生活の質向上、介護予防の観点から強く求められており、皆さんには分析を踏まえて社会参加促進方策を検討してもらいます。

この輪講を通じて、質的データの分析技術、分析結果の読解力、施策の提案力を身につけることを目標とします。

対象： 学部3年生を想定するが、他の学生も歓迎する
担当： 樋野公宏、浅見泰司
日時： 下記ガイダンスの際に相談（時間帯は12～13時を予定）
会場： 工学部14号館806号室

☆4月14日（火）12時より上記会場でガイダンスを行います。

関心のある学生は hino@ua.t.u-tokyo.ac.jp（樋野）まで



写真：インタビューを行った団体の活動風景